

INSec#9 ネットワークの防御

要素技術

ファイアウォール

攻撃の検知と防御

防火壁-防火戸付き

WIDE: ファイアウォール 基礎から応用 → http://www.soi.wide.ad.jp/class/20060031/slides/18/index_31.html

実装方式

導入設計

パケットフィルタ方式

TCP/IP通信

対象

IPヘッダ情報: L3

- 発信元および宛先のIPアドレス
- 上位層プロトコルの種別(TCP、UDP、ICMP等)
- オプション情報(パケット分割情報、ソースルーティング情報等)

上位層ヘッダ情報: L4以上

- 発信元及び宛先のポート番号: TCP/UDPの場合
- ヘッダ上のフラグ類(TCPの場合、SYN、ACK、FIN等の状態制御フラグ)
- ICMPタイプ(ICMPの場合)

双方向通信

- 発信元ポート番号は一定ではない。毎回変化する → 同じ宛先に複数の通信セッション
- 応答パケットの宛先ポート番号 → 1024以上 1024未満: グローバルなサービス

ダイナミックパケットフィルタ

- アクセス制御リスト(ACL: Access Control List)
- ACLに基づき個別の通信セッションごとに双方向通信許可
- NAT内蔵FW-家庭用 UPnP(Universal Plug and Play)
- ステートフル・インスペクション 拡張機能
- IP詐称の脅威
 - 絶対的な有効策なし
 - Ingress/Egressフィルタで一部対応

アプリケーションレベルゲートウェイ方式

- 別名: プロキシ方式、サーキットレベルゲートウェイ方式、専用ゲートウェイ
- パケットレベルでの中継機能を持たない

プロキシ(代理: Proxy)サーバ

- 個別のプロトコルごと
 - HTTP Proxy
 - FTP Proxy
 - POP3 Proxy
- さまざまな付加機能
- 診断くん → <http://taruo.net/e/>

ハイブリッド方式

- パケットフィルタをベース
 - UDP上のアプリケーション
 - 高いスループットが必要なプロトコル
- 一部のプロトコルをプロキシ的に処理 ウイルス検査

透過型プロキシサーバ

- パケットフィルタ方式と同様の使い方
- ゲートウェイ上で通信を横取り 利用者からはその存在が見えない
- アプリケーションレベルゲートウェイ方式製品、ハイブリッド方式製品に実装

サーキットレベルゲートウェイ方式

- 別名: 汎用ゲートウェイ、回線ゲートウェイ、トランスポート・ゲートウェイ
- トランスポート層(サーキットレベル)での中継
- 内容チェックなし、接続可否のチェックのみ
- 単純にポート間でのデータ中継 ポートフォワーディング(Port Forwarding)

L2ファイアウォール

- 別名: ブリッジモード、透過モード
- データリンク層フレームの中継 FWの前後でIPアドレスが変わらない
- L3以上の機能を除くFWの設定

UTM(Unified Threat Management)

- 別名: 統合型脅威管理
- 複数の異なるセキュリティ機能を統合し、集中的にネットワーク管理を行うこと

階層的防御モデル

- マルウェア(脅威) → ファイアウォール → 侵入防御 → アンチウイルス →
 - スパムフィルタ
 - URLフィルタ

FWの拡張としてのUTM

- 統合
 - LANスイッチ
 - ルータ
 - ファイアウォール
 - …ネットワーク機器全て
- 究極のネットワークレベルでのUTM

相反する要求とコスト、実現可能性のバランス

- 通信処理能力
- 付加機能
 - ファイアウォール
 - 侵入防御
 - URL/コンテンツ検査
 - スパム対策
 - …